

〔江戸東京野菜生産流通拡大事業（受託研究）〕
馬込半白キュウリにおける台木品種の影響ならびに果実の特徴

野口 貴・沼尻勝人・海保富士男・木下沙也佳
(園芸技術科)

【要 約】「馬込半白キュウリ」の露地栽培では台木の種類による収量性の差は小さく、ハウス栽培では「GTⅡ，ひかりパワーゴールド」などへの接ぎ木で良品果が多くなる。「馬込半白」の果実是一般品種より軟らかく，糖度は比較的高い。

【目 的】

「馬込半白キュウリ」（以下，馬込半白）は一般品種に比べて病気に弱く，栽培が難しいとされている。そこで，接ぎ木栽培や台木品種が生育や収量に及ぼす影響を明らかにし，あわせて果実の特徴を明らかにし，「馬込半白」栽培マニュアル作成の基礎的資料とする。

【方 法】

1. 露地栽培：2017年5月19日に「馬込半白」を播種し，挿し接ぎ後，6月26日に株間80cmで定植し，ネット仕立てで栽培した。台木は「ときわパワーZ2」以下9品種を用いた。
2. ハウス抑制栽培：6月30日に「馬込半白」を播種し，挿し接ぎ後，7月27日にハウス内に株間60cmの栽植距離で定植した。ネット仕立てとし，毎日一定量の灌水を行った。
3. 果実品質：ハウスで越冬栽培している「馬込半白」以下5品種を対象に，果実硬度および糖度を測定した。

【成果の概要】

1. 6月定植の露地栽培では，接ぎ木の有無や台木の種類にかかわらず8月上旬（定植後42日）から収穫期となった。本作では自根区でも，つる割病の発生はなく，また，どの台木でも生育初期から同程度にべと病が発生して9月中旬には収穫期を終えた。台木別の収量をみると，接ぎ木によって特に収量が増えることはなかった（図2）。なお，「馬込半白」果実の形状は短形であり（図1），本収穫調査で短形であったものや曲がり果の多くは販売可能である。
2. 7月下旬定植のハウス抑制栽培では，定植50日後の9月下旬から，寒害を受ける11月下旬までが収穫期間となった。なお，茎葉や地上に着果した果実は寒害にあったが，地表に接した果実は12月上旬まで収穫可能であった。本作ではべと病の発生は見られなかったが，台木の種類にかかわらずうどんこ病が発生した。果実品質を見ると，果実硬度では接ぎ木の有無や台木の種類による差はなかった。一方，空洞の程度は自根区で大きく，台木「ひかりパワーゴールド」で小さかった（図3）。果実収量やA品，B品など良品果は「ひかりパワーゴールド，GTⅡ」で多かった（図4）。
3. 越冬栽培で「馬込半白」の果実品質を一般の4品種と比較すると，果皮や果肉の硬度は低く軟らかく，糖度は比較的高かった（図5）。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 播種・定植期の違いが収量および果実品質に及ぼす影響を把握する。
2. 収量性や作業性を踏まえた仕立て方法を検討する。

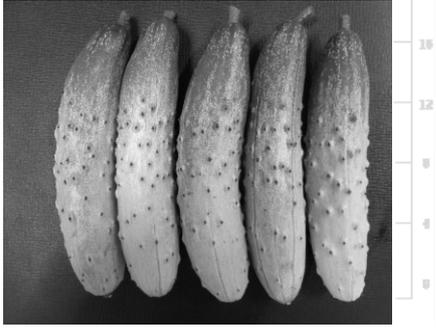


図1 「馬込半白キュウリ」の収穫期始期の形状
(収穫重100g, 長さ17cm程度)

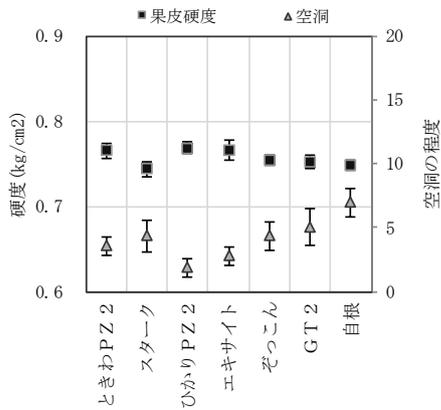


図3 ハウス抑制栽培における接ぎ木の有無, 台木品種が「馬込半白」の果実品質に及ぼす影響
空洞の程度 = $\Sigma \{ (\text{指数} \times \text{該当数}) / (3 \times \text{調査数}) \} \times 100$,
指数0 (症状無) ~ 3 (果実中央部断面の空洞面積が50%以上). 9月下旬~10月中旬調査 (ハウス栽培). グラフ上のバーは標準誤差 (n=30)

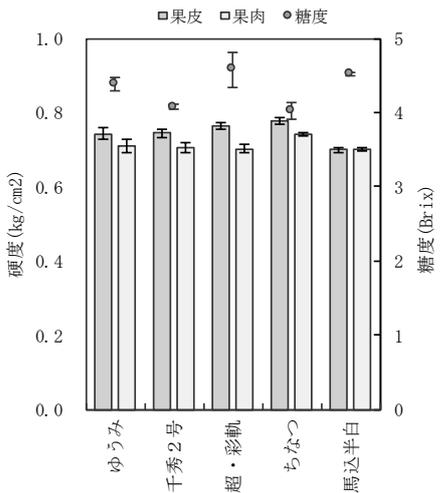


図5 越冬栽培キュウリの果実硬度と糖度
12月中旬調査 (ハウス栽培).
グラフ上のバーは標準誤差 (n=4)

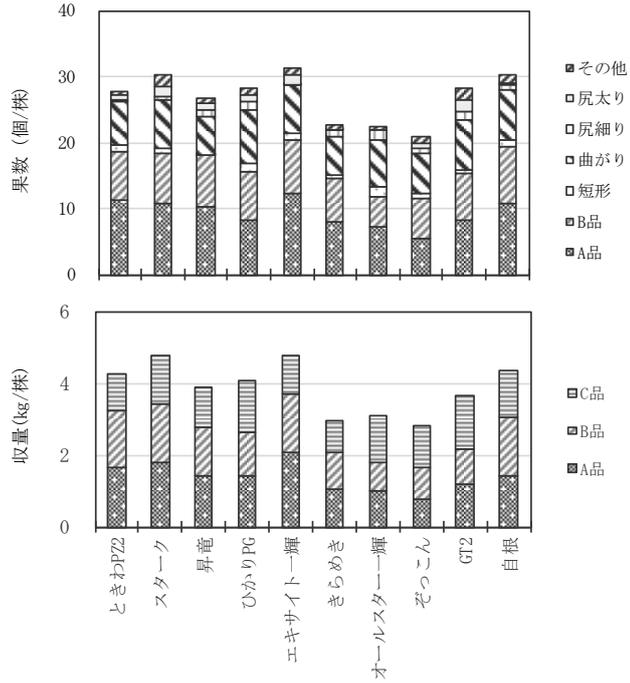


図2 「馬込半白」の露地栽培における台木品種の比較
2017年5月19日播種, 6月26日定植

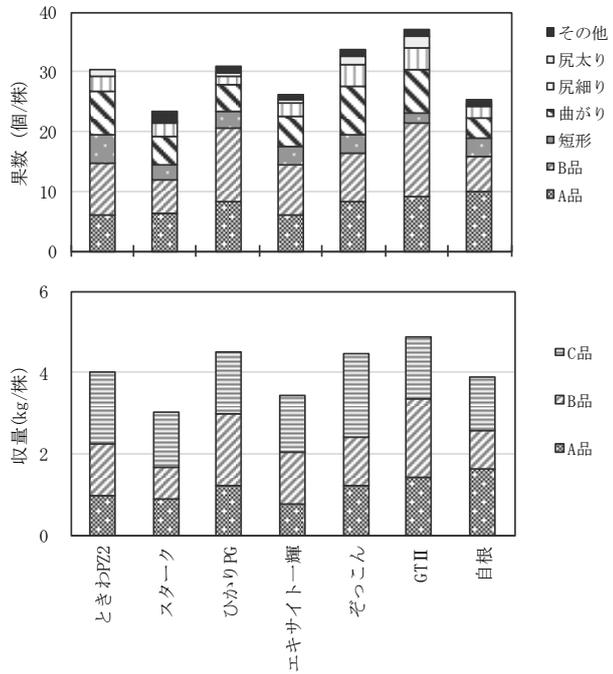


図4 「馬込半白」のハウス抑制栽培における台木品種の比較
(2017年6月30日播種, 7月27日定植)